

『マンガ』

子供の頃から長い間、マンガを読んでいる。
20代までは、マンガは雑誌で読むものだと思います、多くの雑誌を毎週読んでいたものだ。
小学生の頃は、少年チャンピオン。
少年野球をしていたせいもあって、「ドカベン」が大好きだった。
常勝・明訓高校が初めて敗れた時は、物凄くショックで、とにかく残念な気持ちになり、
落ち込んでしまったのを憶えている。
中学生になってからは、少年ジャンプ。
特に「リングにかけろ」に夢中だった。
空手をやるキッカケが、実はこのボクシングマンガの「リングにかけろ」だったのだ。
“ブーメランフック”という必殺パンチは、相手に当てると50メートルくらい吹っ飛ばす
威力があり、喧嘩が強くなりたかった中学の私は、何としてでも習得してみたかった。

マンガを信じて、そのまま何の疑いもなく行動に取れた時期だった。
私は、もっとボクシングが知りたくて、本屋さんに行った。
その時、ボクシングの技術書を買おうと思ったのだが、ある一か所だけが光っているように
見えたのだ。
何気なく光って見えた所に手を運んで、本を取ってみた。

「大山カラテもし戦わば」
空手着を着たおじさんが、トラに回し蹴りを入れている絵が描かれている表紙の本だった。
(す、凄い・・・)

私はこの絵を見た瞬間、完全に心はトラに蹴りを入れる人になっていた。
すぐにその本を購入し、隅から隅まで読みふけた。

著者は大山倍達。

牛を殺した空手家だ。

この牛殺しのシチュエーション、小学生の頃、テレビアニメで観た事があった。

そう、「空手バカ一代」のモデルの人なのだ。

私は、ウルトラマンや仮面ライダーと同じくらいの憧れを抱き、マンガ「空手バカ一代」を読んだ。

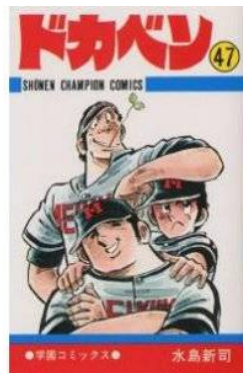
まさしく、そのマンガには私が思っていた夢の世界が描かれていた。

「醜いリコウで生きるより、綺麗なバカで生きてやれ」

人に笑われようが、何を言われようが、自分の信念を持ち、夢に進んで生きて行く姿勢。

本当の強者への道。

歩むキッカケを与えてくれたのがこの「空手バカ一代」だった。



第90号

誌名：平成武師道
発行元：平成武師道活学塾事務局
京都市下京区麩屋町四条下ル八文字町 341
総合打撃道 TEL：075-361-1199

監修：山口 貴史
編集：兵庫 義幸

～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

あれから 35 年。

牛を殺す事はできないが、それ以上に夢を描いてきたような気がする。

当時、マンガなんて読むと、頭が悪くなると怒られたものだが、私の人生、
本当にマンガに勇気を与えてもらった。

人それぞれ夢を与えられる物は違うと思うが、私はやはりマンガからエネルギーをもらい、
心の力を沸かせてもらったのだ。

最近、同世代の人はよくこう言う。

今のマンガは面白くない、わからない。

これではダメだ。

昔のマンガは面白い。

そして、今のマンガも面白い。

結局、読み手の心、夢を見たがってれば、いつだってマンガは面白くなるものなのだ。

夢を見たら、次は実行。

私の場合はこうだ。

「もっと平成武師道を極めるぞ！」

今でも現実の世界にマンガを描き続け、面白い作品を作っていこうと生きている。